

# イザというとき慌てない! 「男と女の快護学」

介護保険入門 上手に使うカンどころ 〈10〉  
いくらかかる? 介護サービスの利用料

## おちとよこ

高齢者介護、医療、福祉、教育、育児、暮らし、それにまつわる家族、女性問題を中心に、新聞、雑誌等に執筆のかたわら、講演やテレビに出演。国、自治体委員を歴任。  
主な著書に「一人でもだいたいようぶ〜晴ればれ冬じたく〜」日本評論社、「第3版・介護保険上手に使うカンどころ」「入院・介護SOS」創元社、「シングル介護」NHK生活人新書 他。また「生活図鑑」「あなたの小さかったとき」「ただいまお仕事中」福音館書店、「おばあちゃんのさがしもの」岩崎書店など、絵本、児童書も多数。

## 著書紹介

年金世代の  
介護よろず  
お悩み相談

四六判 176頁  
価格1300円(+税)  
主婦の友社刊



チェックイン鍵と食券妻が持ち：前号の悠悠川柳のように、いつの間にか生活回りは妻にお任せ：という男性軍も多いのでは？ でも、こと介護サービスの利用料やその仕組みに関しては、年金世代になったら各自知っておきたいもの。いざというとき、無駄なお金を使わずに、賢くサービスを活用するためにも!

## ●8月から、介護サービスの利用料が2倍になる!?

年金から少なからぬ介護保険料を、2カ月分ずつ一生涯天引きされる年金世代。介護保険サービスを利用したときに自己負担が「利用料の1割」と思えばこそその我慢…。確かに、これまでは残りの9割は介護保険から支払われるというのが、制度創設以来のお約束でした。ところが2015年、今年の8月から

は、収入によっては2割負担という法改正が行われました。国は、高齢者の上位収入者20%が対象で、大半には関係ないと言いますが、読者の中には、人ごとではない方も多いことでしょう。国が示している2割負担になる年収

目安は、年金の場合、一人世帯は280万円以上、二人世帯なら346万円以上で、前年の収入がその算定基礎となります。この基準額を1円でも超えれば、利用料総てが2割負担になるのですが、たまりません。特に共働きで頑張ってきた世帯では、影響を被るケースが少なくありません。

在宅で介護している場合、介護サービスの1割負担の平均利用月額額は、例えば一番重い要介護5で2万5009円というデータがあります。2割負担になれば単純に2倍の5万18円にアップするということ。平均以上に介護サービスを利用している人もたくさんいますから、もしも1カ月に3万5000円利用していたら、一挙に7万円に跳ね上がることとなります。これだけでも驚きですが、介護サービスの利用料は、何とこれだけに止まりません。

## ●さらなる重圧、食費、居住費:

介護保険サービスを利用すると、サービス利用料以外にも、図のような保険外費用が必要になります。これがまた、ば

かにならないのです。

まず「食費」。これはデイサービスやデイケアの昼食とおやつ代、ショートステイや施設入所の朝昼晩の食事代など。国は1食当たり460円と基準額を示していますが、施設側が自由に設定できるので、施設ごとに差があります。

次の「居住費」(滞在費)とは、施設入所の部屋代や水光熱費。ショートステイ滞在費、グループホームの家賃、小規模多機能型居宅介護の泊まりの部屋代など。これらもすべて保険外。たとえば、特養に入所出来たとしても、個室だと部屋代は6万円以上。多床室と呼ばれる4人部屋でも、水光熱費として1万円、それも今回の改訂でさらに値上げされ、これまで保険内だった部屋代も新たに徴収するという流れが進んでいます。プライベートが確保されない多床室を居室と呼べるのか? 疑問が残ります。

## ●まだある保険外の自己負担

保険外自己負担はまだあります。「日常生活で必要となる費用」。歯ブラシやタオルなど身の回りの費用や理美容

代、アクティビティー代、預かり金の出納管理代、私物の洗濯代など。一見ここで暮らしていても必要な費用ですが、利用者を選択権がなく、出納管理代二つをとつても、月500円、1,500円、2,000円など、施設で差があるので要注意です。

また、「おむつ」を使用する場合は、利用サービスによって、保険外自費と保険内の2種類あるので複雑です。デイサービスやデイケア、グループホームや介護付き有料老人ホーム、小規模多機能型居宅介護では保険外、特養などの介護保険施設とショートステイは保険内です。保険外では割高な請求もあり、その場合はおむつを持参しても構いません。

最後の「特別なサービス」とは、利用者が自ら希望した特別居室や特別食、遠くのサービス事業者を特別に利用したときの実費交通費や送迎代などです。医療系介護施設などの差額室料などが代表的ですが、請求は事前に文書で説明し、利用者の了解が得られた場合に限り使われています。いずれにしても保険外負担額は、サービスの種類や事業者で大きく異なるので、事前にケアマネジャーや事業者によく確認し、比較検討することがポイント。

負担増で頭が痛い介護サービス利用料ですが、諦めるには及びません。次回はその軽減技をお伝えします。

## ●介護サービスの費用

介護費用
介護サービスの利用料 (基本部分+各種加算の1割か2割負担)
+
食費
+
居住費または潜在費(光熱水費)
+
日常生活で必要となる費用
+
おむつ代
+
特別なサービス

## ・快護のポイント

「介護保険サービス費用は、1割負担だけにあらず。欠かせない情報と比較検討!」